

「愚かだということ」

松永 昭代

私は、東本願寺から出版されている『日めくり法語』を長年愛用しています。1日から31日まで書かれている凡夫のつぶやきは、どれも考えさせられる一文ではありますが、なかでも深く考えさせられるのは、28日につぶやかれている「愚かな愚かなわたしです。それさえしらぬわたしです」という一文です。

親鸞聖人は自分のことを敢えて愚禿親鸞とおっしゃられましたが、果たして今どれだけの人が自分を愚かなものだと思っている人がいるのでしょうか。

人間は得てして、いつでも自分のものさしで人を計り、自分に合う人は良い人で、自分にそぐわない人はどちらかという手嫌いします。悪いことが起きたときでも、決して自分のせいにはせず、まずはだれだれが悪いんだと他人のせいにしがちです。

私は、日々生かされていただいている中で、できるだけ相手のせいにはせず、自分が悪うございましたと反省する私でありたいと思っています。感謝する心を忘れないで相手を思いやり、相手の気持ちになって行動していけば、この世の中に諍いなどはありません。

人を殺したり、殺されたりすることが日常茶飯事になってきている今こそ、もう一度自分を見つめなおし、これからの生きざまを考え、自分を省みないで相手のせいにしてしまう自分がどれだけ愚かなものだということに気付くことが大切ではないかと思うこの頃です。

ご清聴ありがとうございました。